

第2回伊達市公立高等学校あり方検討委員会

会 議 録

伊 達 市 教 育 委 員 会

様式第2号 (第3条関係)

審議会会議録

会議名称	第2回伊達市公立高等学校あり方検討委員会		
議 題	(1) 意見交換		
開催日時	平成30年9月25日(月) 18時30分～20時10分		
場 所	伊達市市民活動センター多目的室1・2・3		
出席委員	葛西正敏 委員、木谷明実 委員、桑井美彦 委員、肥吾信吾 委員、 小嶋義勝 委員、小林浩路 委員、佐藤研一 委員、鈴木敏則 委員、 根子ももこ 委員、馬場一憲 委員、万代淳 委員、山木広幸 委員、 山崎誠 委員、吉川修一 委員、渡邊源之 委員 (計15名)		
	所管部課名	教育部学校教育課	
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	0人
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【会議の概要】</p> <p>1. 開会(事務局:教育部長)</p> <p>2. 委員長挨拶</p> <p>3. 報告</p> <p>(1) 公立高等学校配置計画(平成31年度～33年度)の概要について 事務局より説明</p> <p>【質疑】</p> <p>○委員 今回「伊達緑丘については、今後の市の検討結果を勘案し、平成33年度における伊達との再編を含め、変更することがある」という文言が追加されたが、どういったものか解説してもらいたい。</p> <p>●事務局 道教委がこの検討委員会が開催されていることを勘案し、検討委員会で検討した内容を反映し、公立高等学校配置計画を変更する可能性があるということを示したものである。 また、再編という文言については、統合や廃校を示すものである。</p>			

- (2) 市内中学校及び市外の高等学校生徒との意見交換会について
(伊達中学校、光陵中学校、室蘭栄高等学校、室蘭清水丘高等学校)
事務局より説明

【質疑】

○委員

それぞれどのような場所でどれくらいの人数で意見交換を行ったのか。

●事務局

中学生については、市内中学校2校の生徒会役員13名を集め、伊達中学校で意見交換会を実施した。

室蘭栄の生徒については希望者2名に市役所へ来ていただき、室蘭清水丘については事務局が学校へ赴き、希望者5名と意見交換を実施した。

4. 議 題

(1) 意見交換

【意見】

- ・伊達に進学もでき、多様な進路に対応できる学校ができればいい。
- ・再編についてのみ検討するだけでなく、今後どうすれば魅力のある学校となるか検討を深めるべきである。
- ・前回の教育長の説明でもあったが、今後の人口減少を勘案すれば、間口減を許容して市内2校を存続していくことは難しいのではないか。生徒の数が集まらなければ、教員の数も減る一方であり、学校の予算も減少し、学校運営に支障が出てくるのではないか。
- ・部活面・進学面でも、それぞれ室蘭の学校に魅力を感じ進学する子が多いと感じる。そのため、市内にそれぞれの面で選択肢となりえる魅力のある学校となるよう検討をすすめていかなければならない。
- ・免許外の授業は授業を行う教員も大変であるが、授業を受ける生徒が専門的な授業を受けることができず、かわいそうだ。
- ・子どもたちのニーズに合わせた学校にすることも大事であるが、その学校の特色をだしていくことも大事だと思う。
- ・TV電話等を利用したサテライトの授業を行い、さまざまな科目で、専門的な授業を行えるようにしてはどうか。

【質疑】

○委員

仮に緑丘が3間口になった際、専門性のある授業は行えるのか。

●事務局

3間口になれば教員が減り、専門科目ごとの教員を全て配置できなくなることから、当然教科指導における専門性については不十分となる可能性が高い。

【まとめ】

- 市内2校を統合し、6間口の学校とすることとし、今後の検討をすすめていくこととする。
- 次回までに委員長、事務局で本日いただいた意見や生徒たちからいただいた意見を集約し、今後の市内高等学校の案を作成します。次回はその案について、意見をいただき、検討をすすめることとする。

5. 閉会